

実施日	視察先	視 察 項 目	備 考
5 月 9 日	北海道 札幌市	新・札幌市バリアフリー 基本構想について	市役所 現地視察
5 月 1 0 日	北海道 苫小牧市	橋梁長寿命化修繕計画に ついて	市役所
5 月 1 1 日	北海道 千歳市	グリーンツーリズムにつ いて	市役所 現地視察

視察先	項 目	調 査 内 容
札幌市	新・バリア フリー基本 構想	<p>札幌市では平成10年に「札幌市福祉のまちづくり条例」を制定し，平成21年に「新・札幌市バリアフリー基本構想」を策定するなど，バリアフリーの環境整備に取り組んでいる。基本構想の策定後，国の方針が改定されたことや，高齢化のますますの進展，障害者差別解消法の制定など，バリアフリーを取り巻く状況が変化していることから，平成27年に基本構想を見直したとのことである。</p> <p>基本構想の実現に向けて，それぞれの施設管理者が「特定事業計画」を作成しバリアフリー化を推進している。</p> <p>基本構想の策定以降，地下鉄やJR駅ではエレベーターの設置を進めている。また，低床バスや福祉タクシーの導入により車両をバリアフリー化している。他にも信号機や路外駐車場，都市公園や建築物のバリアフリー化が着実にすすんでいる。</p> <p>実際に道路のバリアフリー化が進む，すすきの駅近くの「狸小路商店街」を現地視察した。この商店街の道路バリアフリー整</p>

		<p>備は、障害者や高齢者団体からのチェックを計画、設計、施工の3段階で実施し、その意見を反映している。</p> <p>具体的には、横断勾配の緩和、沿道の各店舗出入口における急勾配改善、舗装面に御影石を使用することによる滑り防止と目地幅の改善、点字ブロックの中央敷設、歩行者の安全確保などのバリアフリー化を実現している。</p> <p>市内のバリアフリー化が進んだことによる課題としては、多目的トイレや身障者用駐車場の整備が進んだ一方、健常者がそこを利用することによるクレームがあるなどモラルの問題の顕在化などがあるとのことである。</p> <p>今後は、高齢者から外出の際に長距離を歩くことに対する不安の声が多いことから、各施設にベンチなどの休憩施設の設置を進めている。また、肢体不自由の身体障がい者だけではなく、知的障がい、精神障がい、聴覚障がい等への配慮も行ってほしいとの意見も数多くあるとのことである。</p>
--	--	---

視察先	項目	調査内容
苫小牧市	橋梁長寿命化修繕計画	<p>苫小牧市の管理する橋梁は平成25年1月末現在で134ある。</p> <p>高速道路やJR跨ぎ以外の、川を跨ぐ小さな橋梁が86%となっている。</p> <p>苫小牧市の橋梁は、1970年代から80年代の高度経済成長期をピークに建設され、本市と同様に、橋梁の寿命といわれて</p>

		<p>いる建設後50年を経過する橋が年々増加する状況である。</p> <p>架設から50年以上の橋梁の割合は、現在は5%だが、10年後には13%、20年後には41%となる見込みである。</p> <p>苫小牧市では、従来の事後的な修繕及び架けかえから、予防的な修繕及び計画的な架けかえへと政策転換すること、橋梁の長寿命化と、修繕及び建てかえに関わる費用の縮減を図ること、また、苫小牧市はパルプ、自動車部品製造、石油産業などを有する工業都市であり、地域の道路網の安全性、信頼性を確保する必要があることから、橋梁長寿命化修繕計画を策定したとのことである。</p> <p>改良事例としては、昭和26年架設の覚生橋（おぼっぷばし）がある。断面修復、鉄筋の露出を平成26年度に事後保全型で直し、その後は予防保全的に管理していくとのことである。</p> <p>事業の効果としては、2013年から2072年の60年間で試算すると、事後保全では建てかえが91回、修繕が322回で、経費は362億円かかるが、予防保全型では、建てかえが0回、修繕が724回で、96億円となり、長寿命化の効果は266億円、約73.5%の縮減効果があると試算される。</p> <p>今後は、5年に1回の橋梁点検と改修優先順位の検討、長寿命化推進計画の見直し、国の交付金制度の推進を図っていくとのことである。</p>
--	--	--

視察先	項 目	調査内容
千歳市	グリーン・ツーリズム	<p>グリーン・ツーリズムとは、緑豊かな農村で、自然・文化・人々の交流を楽しみながら、ゆとりある休暇を過ごす、滞在型の余暇活動と定義される。</p> <p>農村部の過疎化，担い手不足による活力低下の一方で，都市部では人間関係が希薄化しており，真の豊かさが実感できない問題や，農薬など食品への不安が広がっている。そのような中，農村と都市が相互に補完しあう有効な方策として，グリーンツーリズムが注目されている。都市と農村の交流により，農村にとっては農産物の販売効果や観光による経済波及効果による農業の活性化，都市住民にとっては心の豊かさや安全安心な農産物を得られるといった相乗効果が期待され，旅行業者からの関心も高まっている。</p> <p>千歳市では，農業者による農産物直売所，農家レストラン，観光農園が整備されており，それらを通じグリーンツーリズム事業が行われている。</p> <p>平成17年にグリーンツーリズムを推進する施設の整備を図ることを目的に「グリーンツーリズム市町村計画」を策定した。3年から4年ごとに計画の見直しを行い，現在，34カ所，95棟の関連施設の整備が計画されている。</p> <p>千歳市東部地域の農業は，地区により多様な農業が行われているが，農業を観光として楽しむ地区と位置づけているバイウェイゾーンではグリーンツーリズムが最も盛</p>

		<p>んに行われており，観光農園や農家レストランがある。</p> <p>同地区にある農家レストランを実際に視察したところ，広大な芝生や花々に囲まれたレストランで，農村ならではの新鮮野菜を使用したメニューを提供するほか，いちご狩りや採れたてのトウモロコシの釜ゆでなど，季節ごとのイベントを行っているとのことである。</p> <p>このような，個々の農業者の取り組みを面的，組織的な，継続的な取り組みが必要となってきたことから，農業者を中心とした，グリーンツーリズム連絡協議会を結成し，修学旅行の受け入れ，農業体験ガイドの作成などの取り組みを行っている。</p> <p>取り組みの効果としては，農産物直売所，観光農園への集客数が増えているとのことである。</p> <p>課題としては，施設整備の許可基準を満たすための負担が大きいことや，グリーンツーリズムに取り組む農業者の高齢化があり，今後は若年層の取り込みや市民を巻き込んだ活動を行っていくとのことである。</p>
--	--	---